

報告書要旨

I. ディスプレイ

1. 2020年の市場規模

1.1 液晶モニタの市場規模（台数）

世界市場における2020年の出荷台数実績は、前年比107%の1億3,588万台と増加した。

2020年の新型コロナウイルス（以下、コロナ）の感染拡大により、リモートワーク、オンライン学習、ゲーミング用途等個人需要の伸長が影響した。

日本市場における2020年の台数実績は、世界市場と比べて法人向け需要が高い為、コロナ禍で個人需要が伸長したものの投資抑制により法人向け需要の減少が影響し、前年比97%の603万台と減少した。

1.2 液晶モニタのサイズ別構成比（%）

世界市場における2020年のサイズ別構成では、23型以上が前年の62%に対して70%を占め、大型化が進行した。一方で、アスペクト比16:10、または16:9のワイド画面タイプの占有率は2020年に99%になった。

日本市場における2020年のサイズ別構成では、23型以上がモニタの設置スペースが限られるケースが多い為、世界市場に対して構成比が低いものの、前年の53%に対して64%を占め、世界市場以上に大型化が進行した。一方で、2020年のワイド画面タイプは前年の89%に対して93%を占めた。

1.3 液晶モニタの市場規模（金額）

世界市場における2020年の金額実績は、前年比116%の2兆5,963億円と、出荷台数以上の率で増加した。個人需要のゲーミングモニターなどが伸長し製品単価を押し上げた。

日本市場における2020年の金額実績は、前年比106%の1,164億円と増加した。世界市場と同様に、個人需要のゲーミングモニターなどが伸長し、製品単価を押し上げた。

1.4 パブリックディスプレイの市場規模（台数）

世界市場における2020年の出荷台数実績は、前年比89%の439万台と大幅に減少した。コロナ禍で店舗、公共施設、交通機関が制限され、サイネージ需要が大幅に減少した。

日本市場における2020年の出荷台数実績は前年比100%の17万台と横這いとなった。サイネー

ジ需要は減少したものの、GIGAスクール構想に伴い電子黒板の需要が増加し、結果として横這いとなった。

1.5 ノートPC用液晶ディスプレイの市場規模（台数）

世界市場における2020年の台数実績は、前年比124%の2億1,316万台と大幅に増加した。コロナ禍でのリモートワーク、オンライン学習等、個人需要の伸長によるものである。

日本市場における2020年の台数実績は、前年比124%の1,418万台と大幅に増加した。世界市場と同様、コロナ禍での個人需要の伸長によるものである。

1.6 オールインワンPC用液晶ディスプレイの市場規模（台数）

世界市場における2020年の台数実績は、前年比92%の998万台に減少した。近年のモバイル性のノートPCと、拡張性のデスクトップPCへのシフト傾向が影響した。

日本市場における2020年の台数実績は、前年比78%の61万台と大幅に減少した。世界市場と同様の傾向が強く影響したと思われる。

2. 2023年までの見通し

2.1 液晶モニタ市場規模（台数）

コロナ禍でのオンライン、ゲーミング用途を背景に当面は個人需要を中心に増加するものの需要が一巡すると減少傾向となり、2023年は、2020年実績比99%の1億3,500万台とほぼ横這いの見通しである。

日本市場の今後は、経済回復による法人向けの投資回復により増加を見通し、2023年は、2020年実績比106%の639万台と増加の見通しである。

2.2 液晶モニタのサイズ別構成比（%）

世界市場では2023年には23型以上の占有率が75%を占める見通しである。一方で、アスペクト比16:10、または16:9のワイド画面タイプの占有率は2023年も99%と高い占有率の見通しである。

日本市場では2023年には23型以上の占有率が72%となり、世界市場に迫る占有率になる見通しである。2023年のワイド画面タイプは96%となり世界市場に迫る占有率になる見通しである。

2.3 液晶モニタ市場規模（金額）

世界市場では2023年には2020年実績比99%の2兆5,830億円となる見通しで、台数と同様、コロナ禍での需要を背景に当面は個人需要が増加するものの需要が一巡すると減少傾向となり、結果

としてほぼ横這いの見通しである。

日本市場では2023年には2020年実績比109%の1,266億円となる見通しであり、23型以上の占有率が上がり製品単価を押し上げる見通しである。

2.4 パブリックディスプレイの市場規模（台数）

世界市場では2021年以降、経済が徐々に回復され、2023年の台数は、2020年実績比140%の614万台に増加する見通しである。

日本市場では2023年には2020年実績比134%の23万台と増加の見通しである。世界市場と同様、経済の回復によるサイネージ需要が増加する見通しである。

2.5 パブリックディスプレイの市場規模（金額）

世界市場ではコロナ後の経済の本格的な回復により、2023年には2020年実績比138%の1兆4,747億円に増加する見通しである。

日本市場では、2023年には、世界市場と同様、2020年実績比135%の422億円に増加する見通しである。

2.6 ノートPC用液晶ディスプレイの市場規模（台数）

世界市場では2021年以降も、デスクトップPCからノートPCへの移行が継続し、2023年には2020年実績比104%の2億2,242万台に増加する見通しである。

日本市場では2023年には2020年実績比99%の1,410万台とほぼ横這いの見通しである。デスクトップPCからノートPCへの移行は終了し、買い替え需要が主な需要となるため、今後は大きく拡大しないと思われる。

2.7 オールインワンPC用液晶ディスプレイの市場規模（台数）

世界市場では、2021年以降もモバイル性のノートPCと、拡張性のデスクトップPCへのシフト傾向が続き、2023年には2020年実績比92%の917万台と減少となる見通しである。

日本市場では、2023年には2020年実績比105%の64万台となる見通しである。作業スペースの関係から世界市場と比べてオールインワンPCの比率が高く、旧モデルでWindows10にアップデートしたユーザーからの買い替え需要が見込める見通しである。